



チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第106回「恐怖指数(VIX指数)から見たイラン攻撃 と株式市場動向について」

今週、月曜日(3月9日)に【トランプ政権 イラン攻撃と株式市場動向について】と題して、戦争の状況や今後の株式市場の見通しなどをお伝えしました。日経平均株価は先週末には少し落ち着くかに見えましたが、米国原油先物(WTI)価格が日本時間3月9日の早朝に100ドルを超え、先行き不透明感から日経平均株価は再び大きく下落しました。今週は、恐怖指数(以下VIX指数と表記)の動きから見た株式市場動向についてお伝えします。

～VIX指数とは～

VIX指数とは、Volatility Indexの略称で、CBOE(シカゴ・オプション取引所)がS&P500を対象としたオプション取引に基づき算出し、公表している指数です。今後30日間の株価の変動を予測した指数であり、投資家がどれくらい株式市場の振れ幅を想定しているかを示しています。投資家の市場に対する不安感が高まっている時にはVIX指数は上昇し(株価は下落)、不安感が和らぎ市場の振れ幅が少ないと考えられるときにはVIX指数は低下する(株価は上昇)場合が多いです。概ねVIX指数が20以上の時、市場は不安定な状況であり、20未満である時は安定した状況と判断されます。

～VIX指数の動き～

では、VIX指数の動きを見てみましょう。裏面グラフ1をご覧ください。このグラフはVIX指数(週末値)の動きを2020年1月から示しています。大きく上昇している時期がいくつかあります。まず、2020年3月に66.04まで上昇していますが、これは新型コロナウイルス感染症の蔓延で世界経済の停滞懸念が高まったためです。次に2022年4月に33.40へ上昇していますが、この時はロシアのウクライナ侵攻でロシア産原油やLNGの取引が停止され、エネルギー価格全般の上昇懸念で上昇しました。3番目は2025年4月に45.31へ上昇しました。皆さんの記憶にも新しいと思いますが、トランプ大統領が世界の国々に対して実施した相互関税で世界経済の先行き懸念が生じたことでVIX指数は上昇しました。そして、今回、米国・イスラエル合同軍の軍事作戦への対抗策として、イランは世界の原油海上輸送の20%程度が通過するホルムズ海峡を封鎖する事態となり、原油先物(WTI)価格は急騰、世界経済への先行き懸念が増大しVIX指数は29.49まで上昇しました。

～今後の株式市場動向について～

中間選挙を11月に控えていることから、トランプ政権は今回の軍事作戦を早期に終息させ、原油価格の上昇に歯止めをかけようとし始めています。中間選挙で勝利するためには、原油価格の上昇を抑え込まなければならないため、米国の攻撃は早晚終わるのではないかと考えています。米国・イスラエルが一方向的に始めた戦争を、イランがすぐに応じるとは思えませんが、戦争の見通しが立てば、株式市場は平静さを取り戻しVIX指数は低下すると想定しています。その動きに同調するように、高市政権のもと復活する日本経済を見通した投資資金が流入するでしょう！

(3月11日記)

なお、来週3月19日のウィークリーレターにつきましては、業務多忙のため休刊とさせていただきます。

次回のウィークリーレターは3月27日に掲載させていただきます。

引き続きご愛読賜りますよう、何卒宜しくお願い致します。

